

神戸学院大学 第2次中期行動計画 中期計画(第3層) 2022年度達成度評価表 分野:大学運営

		評価	理由
中期目標	学長のリーダーシップの下で、効率的で機動的な大学運営を行います。		
中期計画	1 内部質保証システムの機能的有効性の促進	C	2022年度より、「神戸学院大学内部質保証に関する方針」及び「神戸学院大学内部質保証体制図」のとおり、新たな方針及び体制で内部質保証を推進することができた。初年度ということもあり、円滑な運営について課題はあるものの、概ね機能していると評価できる。今後は、学内における周知徹底や継続的な運用にかかる具体的方策の検討が必要である。また、第三者評価については、各学部・研究科において、それぞれの現状に基づき実施あるいは検討がなされているが、実施に至っていない学部・研究科も散見される。2023年度以降も引き続き検討を重ね、適切な方法による適正な評価の実施を期待する。
	2 効率的な組織運営	B	各学部・研究科において、教員組織の編制方針に基づき、昇任・採用等が実施できている。特に2023年度の経営学部経営学科データサイエンス専攻開設にあたっては、様々な指標に基づく担当教員との情報共有を図り、適切な教員組織編制につなげている。開設後は、1学部1学科2専攻制(経営・会計専攻、データサイエンス専攻)に対応した教員編制の妥当性等を検証し、最適化に向けて取り組むことが望まれる。事務組織の最適化については、特に問題を抱える学生への学生支援及びハラスメント対応の体制強化を実現することができた。事務組織改編及び人員配置には制限があるものの、2023年度以降も不断の見直しが行われることを期待する。
	3 効率的な財政運営	B	財政計画策定及び予算編成は、基本金組入前当年度収支差額、経常収支差額比率、積立率などの数値を考慮した内容となっている。引き続き、財政状況に合わせて運営し、特に上記の数値を向上させていくことが必要である。また、継続的な募金活動については、概ね目標どおりに推進できている。2023年度以降も引き続き、教育研究振興募金の周知を図り、円滑な継続的募集及び受け入れを計画的に進めることが求められる。
	4 戦略的広報活動の推進	B	ホームページ、交通広告、SNS等の活用に加え、ホームページの改修による閲覧数の大幅な増加もあり、広報活動の強化を図ることができた。一方で志願者の減少がみられることから、より一層広報活動や入試相談会業務を強化する必要がある。次年度以降も、改善の余地のあるオープンキャンパス等を含め、様々な方法を通じて、各方面に魅力的な情報を発信することにより、神戸学院大学の認知度やブランド力が向上することを期待する。

神戸学院大学 第2次中期行動計画 中期計画(第3層) 2022年度達成度評価表 分野:大学運営

		評価	理由
中期目標	学長のリーダーシップの下で、効率的で機動的な大学運営を行います。		
中期計画	5 SDの推進	C	「神戸学院大学におけるスタッフ・ディベロップメント(SD)実施に関する基本方針」に基づき、計画的にSDを実施できている。また、大学全体のSD実施計画の策定も実施できている。一定の評価ができるが、全学部・研究科・部署の詳細な実施状況を把握することが必要である。2023年度以降、引き続きSDの実施状況の検証を行い、その結果を反映した取組みに期待する。
	6 男女共同参画の推進	B	男女共同参画推進室を中心として、イベントの開催、リーフレットやニュースレターの発行、本法人が設置する学校のOGや女性教職員の活躍を顕彰する「森わさ賞」の表彰、介護・保育事業等、全学的な男女共同参画への取組みを継続的に実行していることは評価できる。また、各学部・研究科・部署において、女性教職員比率及び上位職における女性比率の向上に向けて共通認識を持って取り組むことができている。2023年度は、第2次男女共同参画推進計画(2023-2027)に基づき取組みを継続し、より一層情報発信を強化し、また育児・介護休業法の改正や今後の生活環境に応じた男女共同参画推進事業について検討していくことを期待する。
	7 教育後援会・同窓会との連携推進	B	コロナ禍の影響はまだ残ったものの、教育後援会・同窓会ともに対面開催が実現し、情報共有や意見交換によって、学生支援等の充実につなげることができた。また、同窓会と連携したキャリア支援においても一定の成果があり、評価できる。引き続き、教育後援会・同窓会との互惠互助関係を強化し、それぞれのニーズに応じた活動の充実と、教育後援会・同窓会活動の更なる活性化を期待する。

評価 S:目標よりはるかに上回る、A:目標をやや上回る、B:おおむね目標どおり、C:目標をやや下回る、D:目標をかなり下回る